

## 群馬詩人クラブ

## 会報

No. 286

編集／群馬詩人クラブ幹事会

代表／平野秀哉

発行／群馬詩人クラブ事務局

〒370-3102

高崎市箕郷町生原1730

龍昌寺

印刷 三協印刷

振替番号 00140-8-728969 狩野務

## PC雑感

この度、詩人クラブの役員改選が行われ、  
員の役割なども決定して、新しい動きや、  
題点も出てきた様である。

まず、詩人クラブ会報など出版物や行事な  
どをインターネットで流したいとの事、準備  
もして、費用は無料サイトを利用する。  
その手続きなどは今年度の役員に優れた技術  
を持った者がいるので安く出来るようだ。そ  
んな事が会議に上程された。

現代社会に於いて通信や事務などPC化は、  
この会にはおそしに過ぎた感もある。早  
急に取り組むべきであろう。

現在、PC化の進展はワードばかりでなく  
諸分野に広がっている。企業、役所、個人情  
報ネット等々。現在詩人クラブでも詩誌の発  
送や、通信、手紙などの発送などの合理化は、

## 主な記事

- 「夜明け」について 大塚史朗 …… 2
- 詩の広場 …… 3  
「仮面が無かった時代」 関谷 隆
- 書評 …… 3  
田中良三『詩のまちから』 須田芳枝
- イベント報告 …… 4  
高崎現代詩の会「朗読会」 清水由実
- インフォメーション …… 4
- ホームページリニューアルのご案内 …… 5
- 年刊詩集原稿募集／新入会員紹介 …… 6
- 受贈詩誌御礼／編集後記 …… 6

## 佐鳥吉美

代々に伝えている。USBメモリーを利用し  
て事務、発送などが敏速に行われている。

私は流行り病や流行り物には弱く、ビデオ  
などもフィルム時代から愛用していた。ある  
団体での行事に数十時間かけた撮影、それを  
一〜二時間にまとめてビデオ化、配布したこ  
とがあった。ところがビデオの使い方を知ら  
ない人が多数で利用は少なかったようだ。

詩の仲間達での行事で写真を撮る、大抵は  
無料配布、枚数が多いと費用が高むので、最  
近はDVDにして配布している。一枚の写真  
ほどの値段で、パソコンやプレーヤで大型テ  
レビの画面にしても見られる。また、DVD  
を写真屋に持ち込めば陽画化も。ところが  
メーカー各社の互換性がなかったり、見ても  
らえぬDVDになっていらい。

あまりにも急速な進化に追いついていけな  
い財布もそうだが、カメラ、ワープロ、PC  
等々、毎年変わる最先端の機種に振り回され  
て来た。互換性のないテープ、メディア、パッ  
テリー、しまいは製造中止で廃物化。  
PCにしても毎年や半年間の新型化、デジ  
タリにしても使いこなせ新しい機能も使いこ  
なせばこんなすばらしいものはないわけだが。  
これは、インターネット化でそれだけの仲  
間が利用できるかを問うている事で、幹事に  
も問われている。これからは先端技能の勉強  
が必要だろう。

最近では電子化された出版物、同人誌など、  
他、新聞、銀行、役所など電子化が進行して  
いる。新聞が一日で廃品回収化されてしまっ  
ているのはメディアの多数化と複雑化に押し  
入れている行けない状況で、紙面記事の縮小  
化などには大変役立つだろう。

PC化は益々各分野の裾野を広げて、他方  
に進出するであろう。我が家でも孫が日常的  
に使用し肉体化している。受験などの資料の  
取り寄せ、情報の収集などを行っている。

時代の最先端を行く我がクラブ、幹事の  
人選などでもPC化等を配慮すべきだろう。

今回年度目の役員として思う事で、群馬詩  
人会報、No.285や年刊詩集、その他の記録が役  
員の手の内にあるか、代々が受け取り保存、  
そして会員等に閲覧されているか？

仲間の詩集、音声映像など四散してしま  
ぬうちに集めておいたらいいなと思う。

# 「夜明け」について

大塚史朗

群馬詩人会議が発行している「夜明け」について書いてくれとの依頼があった。咄嗟に浮かんだのは昨年の10月刊、179号に書いた「夜明けへの回顧」という文だった。それを書くために私が入会してから(76・44号)の誌を全部取り出して記したものだ。それ以前に刊行されたもの(69/10・18号)も手元になり、すぐ書けるだろうと引き受けた。

18号の入会案内に次のようにある。(略) 詩はむずかしいものでなく、わたしたちの身近なものです。ほんとうにわたしたちの詩を、香り高い詩を、つくりましょう。略・たくさんの人びとの心を動かし、なかまをひろげ、平和と独立のしあわせな日本をつくる助けとなるでしょう。略。これは全国の「詩人会議」の主旨であるが、群馬も同じだったのだろう。寄せている人は17名、40頁。しかし現在、会員はあおきあきらさん一人だ。  
〈夜明けは100名以上の会員がいる。廃刊など考えられない〉。運営委員長の一本繁さんに言われて入会した76年の44号から、180号の現在まで欠稿なしで過ごしてきたが、44号の目次を見ると作品を寄せているのは22名、現在、当時の会員で作品を出しているのは私だけである。初期の会員、活動方針はすべて失われていることになる。と「回顧」に記して

いる。

83号(86/10)より、私が発行人となった第21回総会報告を見ると、参加者が20名、午後は梁瀬和男さんに講演をしていた。記録が6頁半も載っている。例会も毎月前橋の喫茶店で行われていた。

88号(88/4)に第9回『郷土詩人発掘シリーズ(夭折の詩人たち)』の講演記録が見える。講師が梁瀬和男・久保田稷氏である。二人はこの時より会員になっていた。その後、毎号原稿を寄せてくれていたので、全国のグループからも過去にない「夜明け」の評価と存在が高まっている。次号(89号)から久保田稷さんの『群馬における私的詩史ノート』の連載が始まった。これは166号(10/7)まで75回続いた。群馬詩壇の貴重な記録として残るだろう、と記した。

110号(96/7)から年4回の定期の発行が現在まで続いている。しかし会員の退会は続いた。142号(04/8)より事務局長、編集長、発行責任者を私がすべて引き受けた。このころ総会を開いても私の他一人きりしか参加しなかった。その後とりやめてしまった。だが毎月第四土曜日の午後、我が家で月例会を開いたら毎回数名の参加者が居た。11年目になるだろう。だが常に来ていた二名が亡くなり、三名が高齢のため退会している。

現在「夜明け」は常に詩作品を寄せているのは10名たらずだが、表紙うらの吉田光正さんの彫刻写真と解説。梁瀬和男・久保田稷さ

んの評論の連載。月夜野風子さんの主にヨーロッパの体験によるエッセイと、会員の詩集発行時の特集を組んでいる。300〜350部発行、以前に比べると3倍以上の方々に配布している。

この文を書くために、群馬詩人クラブ発行の『創立五十周年記念誌』(1965-2007)を取り出してみた。140団体の記録がある。現在も続いているのは「裳」「東国」「夜明け」だけ、あとは年一回くらいのが3団体ほどだ。短歌や俳句に比べて、現代詩は文芸としての存在が弱くなってきてしまったのだろう。かつて100名以上も居たという「夜明け」も継続しているだけでも貴重なのだと、発行責任者として位置付けている。

## 第二十二回

### 群馬詩人クラブ現代詩作品展

テーマは特にありません

会場 未定

参加費 千円 お一人何点でも可

日程等決まりましたら、会報等でご案内させていただきます。  
多くの方のご参加をお待ちしています。

## 詩の広場

## 仮面が無かった時代

関谷 隆

藁葺きの家に住み  
二階立てのバラックがあつた  
ツバメが毎年やってきて  
芝桜や菜の花が綺麗でした  
四つ葉のクローバーのある所がありました  
外便所があり 夜は怖かつた  
ジャガイモを入れる室がありました  
今思うと防空壕だと思ひます  
リヤカーの轍のある道があり  
そこが遊び場でした  
電が降りました  
今もあの日の真つ赤な夕焼けが忘れられない  
蚕を飼っていました  
桑切は手が痛くなりました  
田畑を耕しました  
稗拔きが辛かつた  
田植え稲刈りがありました  
如何にして逃げるかを考えました  
偽りの多い醜い人生だと思ふ  
仮面を被りたいと思ふ  
もう既に仮面を持っているかもしれない

書評

田中良三詩集

## 『詩のまちから』に寄せて

須田芳枝

128篇の作品が収められた本書は、ずっしりと掌に重い。ページを捲ると最初に出合う「うみをみたことのないあっちゃんが」は平仮名のみで書かれた8行の詩。海を知らない幼子が海より青い目で絵本の海に話しかけている、という作品だ。読者が初めて手にする一冊の本を捲るとき、そこには未知なる海に漕ぎ出す船長のような緊張感、興奮、好奇心があるのではないだろうか。巻頭詩として置かれたこの短い作品は、これから捲るページ(海)へ誘われる楽しみを提供してくれていた。詩を書く時、作品を短く終わらせる事には勇気がいる。どこか臆病になり書ききれないものどかしさで、補足説明をしてしまう事が多い。次の三行詩「きたかぜがさびしいね」／きたかぜがさびしいね／あっちゃんが／なきながらねてしまつたあととは／

静かな余韻が残る簡潔な一篇である。前半部分はこのような平仮名を多く用いた比較的行数を詰めた作品が並んでいる。新しい命への不思議と賛歌、生命への慈しみの心情が父親の視線から書かれていて愛情溢れる光景に、こちら側も思わず豊かなもので満たされた。「千香子の見舞い」／おとうさん このまぐらは ちかちゃんがつくつたもので

す このまぐらをも いつもしていてね 早くびょうきを なおしてね ちかこより」／と手紙が添えられた手作り枕。看護のために急に留守がちになつた母と、昼間からパジャマ姿で病院のベッドに横たわっている父。日常が少しずれてしまつて戸惑い寂しく心細い少女の肩が浮かぶ。その枕は／見れば／糸の結びは／セロテープで止められていたのだ(四連目抜粋)。自身が抱えてしまつた病の悩みや不安がどれほどあつても、ほんのり明るい病室としんみりとした時間が見えた。

読み進むと人との関わりに真つ直ぐ誠実に真摯に向き合つて来たが故の、永訣の作品に出合う。「Jさんに」「ノープロブレムの人」「ボーと汽笛を鳴らして」等は、惜別以前にあつた友情や信頼の確かさが書かせた喪失と悲しみの詩である。生きる事と対にある別れの前で人はただ跪く事しか出来ない。だからこそ、花に癒やされ空に思いを馳せる事が出来るのだろう。「路上の椿」／椿は路上に赤々と咲いていた／花だけで／散つたことなど気づきもしないで(全行)

最後に半世紀近い時間を巻き戻してみると、山村の小学校の廊下が見えた。両手に一杯資料を抱え軽い足取りで歩いて来るのは田中生である。私達は急いで教室に戻り、背筋を伸ばして椅子に座つた。「おはようございます」と言うとおはよう」とメガネの奥の優しい目がキラリと光つた。小学校の二年間を先生の生徒として過ごせた事の幸運を思う。

イベント報告

高崎現代詩の会

朗読会 報告

清水由実

去る二月二十三日の午後、恒例となった浅き春に詩を味わうの第七回目の朗読会が開催されました。

記録的な大雪が降った一週間後ではありましたが、この日は暖かな日差しに恵まれ会場となった鞆町の「カフェあすなろ」に会員八名、会員外の方六名が集いました。

二階のフリースペース。間接照明の柔らかな光。板張りの壁。微かに香る珈琲の匂い。素敵なバックボーンの中で、ことばの旋律がより濃密に響きます。

ご夫婦の息の合った連読、女性お二人の艶やかなお声での朗読やイエスタデイを自作訳して歌声を披露して下さった方など自分のテリトリーで選んだ詩、自作詩を朗読しました。朗読前のひとことも、人となりが表われて味わい深い刻となりました。

声を潜めたり、強くしたり表情をつけながら演技者の醍醐味を感じお互いの声を聞き合うのも悪くないのではないのでしょうか。

詩を読み、聞いて、味わって、共有しましょう。

インフォメーション

ほげっと・poem 展開中

会期 平成26年3月1日～4月30日迄

会場 渋川ショッピングプラザ1F

市民の憩いの場「オアシス」にて

住所 渋川市辰巳町一八一五―四十二

時間 10時～18時(年中無休)

群馬県内で活躍中の詩人の作品を順次紹介しています。月半ばで作品を入れ換えての展示です。群馬年刊詩集・県内で発行された同人誌等から、掲載の許可を戴き展示しています。お時間が合い合わせ先 須田芳枝まで (携帯090-4240-9059)

第十三回 あすなろ

日時 平成26年4月13日(日)午後2時より

場所 コミュニティカフェあすなろ

内容 講演 中村不二夫氏

演題 「襟章国の国境の越え方」

詩の朗読 李美子さんほか

連絡先 事務局 曾根ヨシ

電話 027-3232-6251

第十七回 大手拓次をしのぶ会「薔薇忌」

日時 平成26年4月27日(日) 13時～16時

会場・内容

(一) 墓前祭 13時～

安中市磯部・大手拓次墓前

(二) 語る集い 13時30分～16時

磯部温泉会館

(1) 講演 愛敬浩一先生

(高崎商科大学附属高等学校教諭)

演題 訳詩というレッスン

(2) 茶話会

・詩の朗読―小中学生・会員・参加者

・懇談―薔薇のケーキをいただきながら、自由に楽しく

参加費 五百円

連絡先 事務局

大手拓次研究会

代表 真下宏子

電話 027-385-5703

※磯部温泉会館は、JR磯部駅北口から徒歩2分。磯部詩碑公園内赤城神社隣。会館から墓地までは徒歩3分。直接会場へどうぞ。

高崎現代詩の会

現代詩ゼミのご案内

高崎現代詩の会では、二時から総会が開かれ、総会終了後に現代詩ゼミを開催いたします。会員外の方も参加できます。皆様、どうぞいらしてください。

現代詩ゼミ

日時 平成26年4月20日(日)

午後2時40分～4時20分  
場所 高崎中央公民館  
高崎市末広町二七  
☎027-3322-5071

講師 愛敬浩一さん  
演題 「廣・詩的自叙伝」

「愛敬浩一さん」1952年生まれ  
樋口武二さんと共に「詩的現代」の編集発行  
詩集に『危草』『クラー』『夏が過ぎるまで』他  
評論集に『詩を噛む』『影と飛沫』『岡田刀水士  
と清水房之丞——群馬の近現代詩研究』他  
伊勢崎市在住。

第28回まほろばポエトリーステージ

木坂涼講演会 「詩の食べ方」 いろいろ

日時 平成26年5月3日(土) 午後2時より  
場所 榛名まほろば  
会費 1500円(1ドリンク付き)  
定員 50名  
予約・申し込み  
電話・FAX 0279-55-0665  
メール harunamahoroba@nifty.com

第42回朔太郎忌

朔太郎ルネサンス in 前橋

◇とき 平成26年5月11日(日)  
13時～17時

◇会場 前橋テルサ  
(群馬県前橋市千代田町二丁目5-1)

◇定員 180名(入場無料)

(定員を超えた場合には立見をお願いするこ  
ともあります)

◇内容  
対話

萩原朔太郎の誘惑 川上未映子

◆映像と対話

朔太郎を見る／朔太郎を聴く

|| 吉増剛造

(聞き手 三浦雅士)

◆演奏

群馬マンドリン楽団

前橋文学館友の会「楽しく歌う会」

◆朗読

群馬詩人クラブ、前橋文学館友の会

◇懇親会

当日、18時より懇親会を行います。

◆会費 3000円

(当日、受付にてお支払いください)

※懇親会に参加希望の方は、葉書に住所・

氏名・連絡先を明記の上、前橋文学館ま

でお申し込みください。(4月15日(火)

必着)

※詳しくは、前橋文学館へお問い合わせく  
ださい。

前橋市千代田町三丁目12-10

電話 027-235-8011

群馬詩人クラブホームページ

リニューアルのご案内

このたび、群馬詩人クラブのホームページ  
をリニューアルすることになりましたので、  
ご連絡いたします。

サイト名

<http://gunmashijiclub.jimdo.com/>

掲載内容は

●群馬詩人クラブについて

現状 沿革 等

●会報

最新の会報の内容の掲載

過去(一年ほど前まで)の会報を  
PDFで掲載。(ダウンロード可)

●イベント

現代詩作品展

秋の詩祭

会員の参加するイベントの紹介 等

●年刊詩集

最新の年刊詩集の目次紹介

過去(五年ほど前まで)の年刊詩集の目  
次をPDFで掲載。(ダウンロード可)

●会員のページ

作品 近況 等

少しずつですが、内容を充実させるべく準備  
中です。

・イベントの案内・近況

等掲載ご希望の場合は、上記サイトのお問い  
合わせのページよりご連絡ください。

(提著 宏)

年刊詩集第三十七集

原稿募集

締切日 七月三十一日(木) 必着

参加費 会員 5500円  
会員外 6000円

\*但し、二頁を超える作品は、いずれの場合も一頁あたり2500円の追加となります。

形式 見開き二頁(40字×40行)を基本とし、最初の五行は表題・作者名。

\*行数オーバーの場合追加料金となりますのでご注意ください。

発行 十一月発行

配布 平成二十六年度総会にて(2部)

\*当日欠席で郵送を希望する方は、参加費に送料500円を加算して振り込んでください。

参加費振込先 郵便振替で左記へ。

口座番号 00110101485932  
口座名義 篠木登志枝

\*振り込み手数料は自己負担となります。  
\*年刊詩集分〇〇円・郵送料500円と明記のこと。

原稿送付先 須田芳枝宛

住所 〒377-0201 洪川市上白井二三四一  
電話 0279-5315718

\*郵送にてお送りください。  
\*原稿はコピーしておいてくださると助かります。

新入会員紹介

長岡 莊三

住所：〒377-0008  
洪川市洪川七九七一  
電話：0279-2311932

受贈詩誌御礼

\*御惠贈感謝いたします。

- 日本現代詩人会会報 133
- 茨城現代詩選 2013 茨城県詩人協会
- いちご通信 (大分県詩人連盟会報) 8
- 兵庫県現代詩協会会報 34
- いしかわ詩人 (石川県詩人会会報) 37
- 中日詩人会会報 179
- 関西詩人協会会報 72
- 長野県詩人協会会報 125
- 北海道詩人 (北海道詩人協会会報) 136
- 秋田県現代詩人協会会報 49
- 秋田県現代詩年鑑 2014
- 裸心版 (かんさんの創作案内) 山梨県詩人会
- 中四国詩人会 ニューズレター 35
- 埼玉詩人会会報 平成26年1月31日発行
- ひょうご現代詩集 2013 (通巻十三集)
- 北秋田市現代詩フェスティバル (詩の作品募集)
- 季刊「詩的現代」8号 詩的現代の会 (三月十日現在 敬称略)

編集後記

わたしの場合、雪の情景というものは、言  
いしれぬなつかしさであったり、どこかしら  
哀しみをともなうものであったりするもの  
ですが、二月十四日深夜の記録的豪雪は、その  
積雪量の尋常ならざることから、驚きと言  
いようのない恐怖感さえ覚ええました。県内でも  
農業施設等に甚大な被害が出ておりますが、  
会員皆さんのお宅はいかがでしたか。大きな  
被害がなきことを願うばかりであります。

さて、今号が届くころは、桜の花も咲き、  
春らんまんといった季節を迎えていることと  
思います。

それとともに、ぐんまに「詩の季節」が訪  
れるのでしよう。

今号でお知らせしていますように四月十三  
日の「あすなる忌」を皮切りに、「朔太郎忌」  
「薔薇忌」それから「まほろばポエトリス  
テージ」等イベントがめじろ押しです。

また、現在日程調整中の本会の「現代詩作  
品展」への出品方ご協力をお願い致しますと  
ともに、それぞれのイベントにも、ぜひ都合  
をつけてお出かけいただきたいと思ひます。

(三枝 治)